

川崎市青少年育成連盟（川崎市子ども会連盟・ボーイスカウト川崎地区協議会・ガールスカウト川崎市連絡会・川崎海洋少年団）

育連だより

<http://web-k.jp/ikuren/>

ゴールデンアックス・トレーニングコース第19期

ボーイスカウトベンチャー委員会委員長 栗田 哲郎

ゴールデンアックス・トレーニングコースは、ボーイスカウト川崎地区が実施する高校生年代のベンチャースカウトの集まりで、合同で訓練を行う隊です。ゴールデンアックス・トレーニングコースは、通称GATCと呼ばれ、各団より優秀なスカウトが集まります。2年ごとに隊を編成し、約半年間の活動において、普段各団、隊では出来ないスケールの大きな活動を実施しています。

昨年は、19回目のGATCで5月28日に結隊し、川崎地区にある10ヶ団・25名のスカウト達が集まり構成され、10月30日の解隊までの期間GATC隊プログラムおよびプロジェクト（少数で計画・実行を行うプログラム）の実施を隊長の林さん（川崎第5団）を中心に活動してきました。①プロジェクトの企画、計画、実施、②スカウト同士のつながりの強化、③指導者になりうるスカウトの養成という3つのテーマを設け、活動しました。

主な活動としては、丹沢ヤビツでの、森林を守為の下草刈り奉仕、オーバーナイトハイキング、プロジェクトアドベンチャーへの参加、個人で行うプロジェクトの企画、実施です。オーバーナイトハイキングでは、7月の暑い時期に小田原駅から沼津港までの約43キロを、課題を消化しながら皆で助け合っ歩きしました。プロジェクトアドベンチャーでは南足柄市にある、どんぐりの家をベースとして、プロジェクトアドベンチャーに参加し、より一層の絆が深まりました。

個人のプロジェクトでは、パラグライダー・明石焼きの研究（実際に明石まで行き調査）・環境に優

しいキャンプの研究・GATCホームページの作成（川崎地区ホームページにリンクしています）など各自思い思いのプロジェクトを実施しました。

高校生年代では、学校の行事、部活動、アルバイトなど、色々忙しい子供達ですが、プロジェクトを実施する為に皆が集まり、大変だったと思います。時にはその作業が深夜に及ぶことも……。その結果、多くのスカウトが実施するまで進むことができ、達成感の成果を得ることができました。今回のGATC活動で一層そのつながりは深まりました。また、隊のプログラムを通して「仲間の大切さ」「チームワーク」「理想のリーダー像」といったものも十分伝えられたのではないかと思います。そして、多くのスカウトが自分の意志によって積極的に楽しく活動出来たことが大変な成果だったと思います。今後の社会（ボーイスカウト）を背負って行く優秀なスカウト達が育っています。

最後に優秀なスタッフが協力してくれたことが今回の成功という結果を齎してくれたのではないのでしょうか。ご協力頂いた皆様ありがとうございました。



募金活動に願いをこめて

ガールスカウト神奈川県第14団 ジュニア6年 黒川 真美

私は毎回募金活動に参加していますが市長さんに直接届けに行くの初めてのことでした。

私は募金をする時は、心の底から市の役にたちますようにと願って声を出して募金をしています。

市長さんにはその気持ちと共に募金を届けられたのでよかったです。これからも、しっかり心をこめて募金活動をしたいです。



海に触れ合う海苔作り体験

川崎海洋少年団 井本勝己

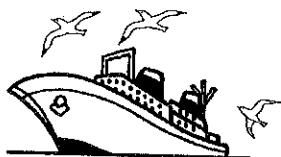
新年の社会活動行事として2月12日に川崎マリエンにて「海苔作り体験」を行いました。いつも食べている海苔は、海でできることは知っていますが、実際はどのようにして作られているかを小学生の団員たちにたずねても首をかしげるばかりでした。

今回、「NPO川崎海の歴史保存会」の多数の方々からお世話をいただきまして、海苔作り体験を行い、海苔について、さらにその歴史や自然に対して関心・興味を団員一人一人が感じ、とても有意義な経験を行いました。

海苔づくりは、生海苔（液体）を重箱でくみ上げて、30センチ四方の枠に流し込むのですが、きれいに作るにはコツがあって難しいものでした。その枠を一人3枚作り、3時間位乾燥をさせました。

乾燥をさせている間に保存会の方々から、海苔作りの歴史のお話と多摩川河口の海苔作りを行っていた場所まで船で遊覧をさせていただきました。

海苔は、水温が低い冬季に生息するため、作業が大変だったこと、明治時代から始まったのですが、埋立地の増加による水質の悪化



から次第に衰退したこと、当時の作業の道具や海水浴場だったことなどお聞かせいただきました。

今回は、団員父母も参加しましたが、団員とともにとても興味深い質問も行わせてもらいました。

多摩川河口の遊覧船は、自然に触れ合うことでもきましたが、ちょうどユリカモメの大群の歓迎があり、えさをなげて団員たちは楽しくたわむれて感動のひと時でした。

乾燥してできあがった海苔を受け取る団員たちの表情には、驚きとうまくできてほっとしたような感じでほほえましい思いでした。

今回は「NPO川崎海の歴史保存会」の方々からとてもお世話になりました。

海苔は今は工場に様変わりして外国産も増えてきましたが、この貴重な歴史を忘れずに大事にしたいと感じました。



宮前地区少年消防クラブ員修了式

宮前地区少年消防クラブ 運営委員 谷島義雄

2月25日10時より、宮前消防署で宮前地区少年消防クラブ員の修了式を行いました。

6月の結成式から、年間6回の研修を無事修了し江口宮前消防署長から29名のクラブ員に修了証が授与されました。

この研修では、正しい防火知識を身につけ、クラブ活動を通して多くの友達をつくり規律正しい少年少女に育ててほしいと願って発足しました。

6月の結成式後、消防のしくみと、はしご車の体験乗車、7月は県防災センターと消防学校での各種

体験研修、8月は川崎港と消防施設、川崎市消防航空隊施設の見学、11月は区民祭へのパレード参加、1月は宮前地区消防出初式での分列行進参加、2月は防火ビデオ観賞後、修了式と多くの見学と体験研修を終了しました。

なお、宮前地区少年消防クラブは、昨年度は、消防庁長官から優良な少年消防クラブとして表彰を受け、今年度は、特に優良な少年消防クラブとして3月27日に団体表彰を受けました。



『匠』を育てる 第35期白梅隊

ボーイスカウト川崎地区協議会 第35期白梅隊隊長 池村 重信

平成18年1月28日。一週間前に降った雪が残る黒川野外活動センターにおいて、17年度の第35期白梅隊が、各団から18名のスカウトと11名のスタッフが集まり結隊されました。

私たち運営スタッフは、昨年10月より幾度も会議を開き、参加スカウトにとって何が大切かを話し合ってきました。そこで決まった今年度のテーマは、『匠』～学んで教え、教えて学ぶ～です。白梅隊の目的として、より良いGB（班長・次長）を育てることから、彼らが後輩スカウトへの指導は不可欠なものとなります。白梅隊に参加したことで、その難しさや大切さを学んでもらい、指導のポイントを把握して参加スカウトが自信を持ち、リーダーシップが執れるGBを目指すことが、テーマの目的となっ

ています。わずか2ヶ月という期間ですが、2回の事前隊集会(宿泊)と数回の班集会を経て、3月25日～28日(3泊4日)藤沢市御所見の森キャンプ場にて本キャンプを実施します。その間に参加したスカウトたちが、厳しい訓練を受け、スカウト技能を高め、今後の活動でより一層活躍していくことを期待しています。また、彼らが新しい仲間を増やしたことで、これから10年経ったときでも『楽しかった』と、思い出に残る白梅隊になるよう、スタッフも努力していきたいと思っています。



スキーキャンプ楽しかった！

ガールスカウト神奈川県第31団 ジュニア4年 山本 遙

1月7日から9日まで長野県八ヶ岳に川崎市連絡会ガールスカウトのみんなとスキーにいきました。わたしは31団で一人だったのでとても不安でした。けれど17団や65団の人と仲良くなれました。

スキー教室は一日目から始まります。わたしを教えてくれたのは島本先生です。まずは基本からやっています。谷側に体重をかけてなどいろいろなアドバイスをしてくれました。初級者コースで練習をして、スピード調整などをしました。

2日目には上級者コースを降りてきました。上級者コースは上から見ると、とても急そうでスピード調整が必要です。3日目はロープウェイに乗って頂

上からすべってくることができました。頂上は氷点下15度だったので寒かったです。

来年も再来年もぜひたいに参加してスキーをうまくなりたいです。



子どもリーダー研修会の実践について

高津区子ども会連合会 副会長 徳 武道 雄

子ども会組織は、異年齢の団体である事が基本です。その中の1つに子どもリーダー研修会というのがあります。

この研修会とは、たくさんの友達を増やし、そして皆で楽しいゲームで遊んだり、料理を作ったり、遊びを通して自分や他人の力を発見し、気配りできるリーダーを養成する会です。

橘地区子ども会では、一年間を通して活動しています。まず6月に開講式を行い、一人ずつ大きな声で自己紹介から始まります。そして八ヶ岳宿泊研修会、三浦宿泊研修会を実施し毎年2月に「ザ・北風っ子」と言うイベントを行います。これは研修会のみんなが各班に別れ、いままで経験したいろんなゲーム等を何度も相談しあいました。そして私たち役員はチラシを作り、町会、学校、子ども文化センタ

ーに配ります。また当日は模擬店を出し、ヤキソバ、ポテト、豚汁等を用意します。

今年はこれからですが、去年は約500名の子どもたちやお年寄りの参加がありました。修了した時のリーダー達の達成して満足した笑顔がとても印象的でした。

又、今年も二つの中学校長に参加をお願いしたところ、こころよく承諾をいただきました。15名の中学生が出席してくれることになりました。



少子化対策情報 大人が変われば、子どもも変わる運動

「大人が変われば、子どもも変わる運動」って何？

◆子どもたちを変えられるのは、私たち大人なんです◆

非行や凶悪犯罪、いじめの多発…。子どもたちをめぐる問題が深刻になっています。このような子どもの問題には、親や大人の言動や姿勢、社会のあり方が反映されていると考えられます。子どもが伸び伸びと健やかに育つよう環境整えるのは、親はもちろん、大人たちの責任です。そんな考え方に立ってみると、大人がしなければならぬことがたくさんあります。そこで、まず、大人自身が変わらなければ、と気づき行動することを呼びかける啓発活動を。そして、大人たちが、地域の子どもは、地域で守り育てる、という気持ちで、子どもたちを温かく見守り支えてあげる「地域のおじさん、おばさん運動」を広げること。「大人が変われば、子どもも変わる運動」はこんなことを目的として実施しています。

◆地域の子どもは、地域で守り育てる「地域のおじさん、おばさん」になりませんか◆

「地域のおじさん、おばさん運動」の基本は、近隣の子どもたちと向き合い、温かく見守ろうという気持ちです。自分ができる身近なことからはじめてみませんか？

★たとえば、こんなことからいいんです★

- ♪ 子どもたちに積極的に声かけをする
- ♪ 子どもたちの立場を考える
- ♪ よいことを率先して行う
- ♪ 子どもへの情愛の気持ち・独立心を育む
- ♪ 子どもたちを事故や犯罪などから守る

★でも、こんなことには気をつけて！★

◎補導や取調べとは違います

「地域のおじさん、おばさん」に資格や条件はありません。子どもたちの健やかな成長を願う大人のボランティア活動です。公的機関等から認定されたものではないので、子どもたちを「補導したり、取り調べたり」はできません。

◎気持ちが伝わるような声かけを

やみくもに叱らず、相手にあなたの愛情が伝わるような声かけをするようにしてください。そのためには、日ごろから近所の子どもたちと顔見知りの関係になっておくことが大切です。

◎身の危険を感じたら無理をしない

◎自分ひとりですべてを処理しない

子どもや保護者から相談を持ちかけられた場合、すべてひとりで解決しないようにすることです。自分だけで処理できるかどうかを判断し、必要とあれば、専門の相談機関に紹介するなど、『橋渡し役』になるのも一つの方法です。

主催：社団法人青少年育成国民会議

問合せ先：川崎市市民局青少年育成課 電話 044(200)2669

川崎市ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/>

<川崎市トップ/暮らしのインデックス青少年/青少年プラン>

事務室移転のお知らせ

平成18年4月から川崎市青少年育成連盟の事務室が移転します。

新しい事務室はこちらになります。(平成18年4月6日移転予定)

〒213-0001 川崎市高津区溝口1-6-10 生活文化会館(てくのかわさき)3階

JR南武線・武蔵溝ノ口駅、東急田園都市線・溝の口駅下車 徒歩約5分

電話：044(811)2125 FAX：044(811)2126

発行 川崎市青少年育成連盟

事務局 〒211-0053

中原区上小田中6-22-5

エポック中原5階

TEL 044-733-3951

印刷 西桜印刷株式会社

※青少年団体への加入申し込み、お問い合わせは、青少年育成連盟事務局へ